

第10回高砂市新たな学校づくり推進審議会 会議録

日 時 令和8年7月22日（水）18時00分から

場 所 高砂市役所分庁舎1階大会議室

出席者

【委員】（名簿順、敬称略）

澤野 幸司、安枝 英俊、坂牛 裕、坂田 克己、橋本 尚人、三好 美弥、
衣笠 彩、八木 直子、大谷 敬一郎、塩谷 右京、川由 伸一、砂川 辰義、
石本 玲子

【事務局】

玉野教育長、木田教育部長、吉金教育部次長、平山教育部参事
竹内教育総務課長、石原教育総務課主幹、長谷川教育総務課係長、井上教育総務課職員

【事業者】

ファインコラボレート研究所（土肥）

欠席者 2名

傍聴者 0名

内 容

1 開会

2 議題

（1）学校施設のあり方について（学校施設の整備方針）

（2）学校施設のあり方について（現状と課題等）

（3）その他

3 閉会

資 料

【事前配付】

高砂市新たな学校づくり推進審議会（第10回）次第

資料1 学校施設のあり方に関する検討（学校施設の整備方針）

資料2 学校施設のあり方に関する検討（現状と課題等）

【当日配付】

資料3 学校施設のあり方に関するアンケート調査結果【教職員】

1 開会	
事務局	先日送付させていただきました次第、資料 1 及び資料 2 はございますでしょうか。また、当日資料として資料 3 を配付しています。 審議会の様子を撮影させていただく場合がございますので、支障がございましたら、事務局にお申し付けください。
副会長	会長がリモートでの出席のため、通信環境等を考慮しまして、進行を務めさせていただきます。 高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第七条の規定に基づき、今回の審議会は公開とします。傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	傍聴の申し出はありませんでした。
副会長	委員の出欠状況をお願いします。
事務局	市民代表の山里委員は欠席との連絡をいただいておりますが、2 名お越しになっていない状況です。
副会長	2 名お越しになっていませんが、過半数の委員の出席をいただいておりますので、高砂市新たな学校づくり条例第六条第 2 項により、本会は成立しております。 それでは、第 10 回高砂市新たな学校づくり推進審議会を開会します。 議題に入る前に、本日の両荘みらい学園への視察について、既存施設を改修した学校でありながら、改修したという印象を感じさせず、新しい学校ができたように感じました。本審議会でも、今後、新築と改修のどちらを選択するかという議論が出てくると思いますが、改修であっても新築に見劣りしない学校をつくれるということに、大きな希望を感じました。また、実際の建物や環境を見ることで、具体的なイメージを共有しながら議論できるという点でも、大変有意義な機会だったと思います。 本日の視察で特に印象に残ったことや、委員の皆様と共有しておきたいことがありましたら、お聞かせいただければと思います。
委員	既存校舎を改修しながら、こどもたちが使いやすい設備になっていたと思います。
委員	開放的で、学校としての威圧感がなく、地域の施設と一体となっていることで、学校が孤立せず、地域の方との交流も生まれやすいと感じました。 特に図書室について、1 階が学校施設、2 階が地域利用となっており、放課後も地域の施設として利用できる点が印象的でした。こうした環境が、こどもたちの本を読む習慣にどのような影響を与えるのか、興味深いと感じました。
2 議題（1）学校施設のあり方について（学校施設の整備方針）	
副会長	議題（1）学校施設のあり方について（学校施設の整備方針）について事務局から説明をお願いします。
事務局	議題 1 について説明いたします。資料 1 をご覧ください。 学校施設のあり方の検討の黄色で示している部分について、前回、現状・課題をご説明し、委員の皆様から多くのご意見をいただきました。これらを踏まえ、事務局として今後の方向性となる基本的な考え方の案を作成しております。本日はその内容をご説明し、さらにご意見をいただきたいと考えております。 1 ページをお願いします。普通教室です。前は、35 人学級でも圧迫感があることや、タブレット・教材等の荷物の増加を踏まえた収納のあり方、地域に開かれた学校としてのゆとりある空間の必要性、将来の児童生徒数の減少や避難所利用を踏まえた柔軟な教室のあり方について、ご意見をいただきました。 また、教室と周辺空間を一体的に活用することや、可動式家具の活用、多様

な学習形態に対応できる柔軟な設計、教職員にとっても使いやすい環境が必要とのご意見もありました。一方で、教室を広くしすぎることによる学習環境への影響についてもご指摘をいただいております。

これらを踏まえ、将来の児童生徒数の推計を見据えて必要な教室数を確保するとともに、ICT 機器や掲示スペースなど、多様な学びを支える空間を確保したいと考えております。

収納については、こどもたちが管理しやすい位置であれば教室の背面に限定しないなど、柔軟に検討できる表現としています。また、学年ごとの活動や学級数の変動にも対応できるよう、机・椅子・ロッカー等については、安全性・耐久性に加えて、可動性を重視して選定・検討していきたいと考えております。

2 ページをお願いします。特別支援学級です。

前は、特別支援学級や校内サポートルームの利用者が増加している状況について、施設整備だけでなく、その背景や要因を把握・分析することも重要とのご意見をいただきました。今後もその動向を注視し、要因分析と対策を並行して進めてまいります。

特別支援学級については、学ぶ場と体を動かすプレイルームを分け、共有できるようにすること、シャワー付きの専用トイレ等を一体的に整備すること、児童生徒一人ひとりの状況に対応できるよう、固定的な部屋をつくりすぎず、可動式家具等を活用することなどを考え方としてまとめています。また、普通学級との交流や協働学習がしやすい動線・配置についても十分に検討していきたいと考えております。

通級指導教室については、周囲からの視線に配慮した配置とし、こどもたちが安心して集中して指導を受けられる環境を確保したいと考えております。

3 ページをお願いします。校内サポートルームです。

建築による固定的なつくり込みはできるだけ避け、家具等を活用して、こどもたちが安心して過ごせる環境を確保したいと考えております。

また、移動する際に他の児童生徒と過度に交差しないよう、配置や動線についても配慮して検討していきたいと考えております。

4 ページをお願いします。学校図書館です。

前は、図書館を学校の中心に配置する事例や、こどもたちが自然と立ち寄りたくなるような家具・空間デザイン、利用しやすい配置、地域の方も利用しやすい配置などについてご意見をいただきました。

これらを踏まえ、学校図書館を学習センター機能を備えた「ラーニングコモンズ」として整備し、新しい学びの拠点としたいと考えております。

そのため、静かに学ぶゾーンと話し合いや発表を行うゾーンを適切に分けるなど、利用目的に応じた空間構成を検討します。また、放課後のこどもたちの居場所としての活用や、将来的な地域利用も見据え、セキュリティやアクセス動線についても検討していきたいと考えております。

5 ページをお願いします。多目的スペース・多目的教室です。

前は、教室と多目的スペースを連続させ、空間を柔軟に活用することや、こどもたちが主体的に使える空間とすること、空調環境の重要性、教室に近接して配置することなど、空間の連続性や使いやすさについて多くのご意見をいただきました。

これらを踏まえ、学校の規模や配置計画に応じて、オープンスペースや多目的教室などの学習・交流空間を適切に整備したいと考えております。

また、オープンスペース等の物置化を防ぐため、可動式の間仕切りや家具を活用し、大人もこどもも柔軟に空間を構成できるようにしたいと考えており

	ます。 特に小学校では、こどもたちが気持ちを落ち着かせるためのクールダウンスペースを配置するとともに、将来の児童生徒数や学級編成の変動にも対応できる柔軟な空間となるよう検討していきたいと考えております。 6 ページをお願いします。管理諸室です。 今回は、実際に働く教職員の意見を反映することや、執務だけでなく休憩・打合せ等のためのスペースを確保することが重要とのご意見をいただきました。 これを踏まえ、児童生徒の見守りやすさと来校者への対応を両立できる位置に配置するとともに、教材作成やコミュニケーションのためのスペースを一体的に整備したいと考えております。 また、教職員の動線を踏まえた配置計画とし、教職員の執務効率と学校運営の利便性を高められる施設となるよう検討していきたいと考えております。
副会長	高砂市の基本的な考え方（案）は、前回の委員からの意見を踏まえて作成されており、おおむね意見が反映されていると感じています。 その上で、記載内容について、追加した方がよい事項や不足している視点があればご意見をいただきたいと思います。 学校図書館については、今回視察した両荘みらい学園では、小学校高学年や中学生の昇降口と図書室が近くに配置されていました。図書室とこどもの動線を近づけることが難しい場合もあると思いますが、こどもが日常的にアクセスしやすい配置とすることが、図書室の利用率・稼働率の向上につながると感じました。 そのため、「こどもの動線上に配置する」など、こどもがアクセスしやすいという視点を、基本的な考え方の中に盛り込んではどうかと思ひます。
事務局	4 ページの 5 項目に「学校の中心に配置し」と記載しておりますが、これは、できるだけこどもの動線の中心、こどもが日常的に通りやすい場所に配置するという意味で、前回いただいた「昇降口の近くに配置してはどうか」というご意見を反映したものです。 ただ、現状の表現では具体的なイメージがしづらい部分もありますので、その趣旨がより明確に伝わるよう、記載を修正したいと考えております。
2 議題（2）学校施設のあり方について（現状と課題等）	
会長	議題（2）学校施設のあり方について（現状と課題等）について事務局から説明をお願いします。
事務局	資料 2 をお願いします。 こちらは、先ほどの議題 1 でご協議いただいた項目以外について、現状や課題を整理したものです。本日は、これらについても委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。 1 ページをお願いします。特別教室です。 理科室、家庭科室、音楽室など、特定の教科を対象として整備された教室を特別教室としています。特別教室は、実験台や調理台などの固定設備があるため、多様な学習形態に応じたレイアウト変更が難しいことや、用途が限定されているため、他教科と連携した学習などに使いにくいことから、利用率が低い傾向にあることが課題となっています。一方で、家庭科室は災害時の炊き出しなど、防災面での役割も担っています。 また、部活動の地域展開に伴い、夜間や休日に地域クラブ等の活動場所として特別教室を開放する必要性も考えられます。そのため、地域開放を進める場合には、学校の教育活動と地域利用を両立するためのセキュリティ対策も必要となります。

こうした課題を踏まえ、資料では他市の事例を3つ紹介しております。固定家具を工夫して複数の用途で活用できるようにした事例や、利用していない時間帯を地域活動に活用する事例、図書空間と特別教室を緩やかにつなげ、メディアコモンズと一体的に配置している事例などを掲載しております。

6ページをお願いします。校庭です。

校庭は、体育の授業だけでなく、休み時間や学校行事を通じて、子どもたちの健やかな体や集団性を育む場です。また、夜間・休日には地域住民のスポーツやコミュニティ活動の場となり、災害時には避難場所としての役割も担っています。一方で、老朽化による水はけの悪化、屋外便所の老朽化や洋式化の遅れ、砂ぼこりや大雨時の雨水流出による周辺環境への影響などが課題となっています。

さらに、近年の猛暑により熱中症のリスクが高まり、校庭を使用できない日が増えていることや、地域活動で必要となる夜間照明、防球ネットなどの設備が不足していることも課題として挙げています。

資料では、こうした課題に対する他市の事例として、排水性を高めるポーラスコンクリートを活用した側溝の整備や、水はけと保水性を高め、砂ぼこりを抑えるためのグラウンド改良、インクルーシブ遊具の整備事例を紹介しております。

8ページをお願いします。地域利用スペースです。

現在の学校施設には、地域による学校運営への支援や、児童生徒の学び・成長を支援する活動などに活用できるスペースが必要ではないかと考えております。

資料では、他市の事例として、図書室や音楽室、調理実習室などの特別教室を生涯学習棟に整備し、市民に開放している事例を紹介しております。

10ページをお願いします。複合施設の動線・配置の基本的な考え方です。

ここでいう複合化とは、学校と異なる目的を持つ公共施設を一つの建物や敷地にまとめて整備することを指します。一方、共用化は一つの施設を時間帯などを分けて複数の利用者が共同で使用することを指します。

本日ご覧いただいた両荘みらい学園をはじめ、近年は学校と公共施設を複合化する事例が増えております。

一方で、学校と地域利用を一体的に行う場合には、児童生徒と地域利用者の動線を適切に分けることや、セキュリティを確保することが重要な課題となります。

高砂市でも、余裕教室や敷地内の専用プレハブを活用して学童保育を整備しており、配置や動線について配慮しています。また、複合化する場合には、駐車場や送迎スペースなどの付帯施設についても確保が必要となります。

資料では、専用入口による動線分離、電子錠や防犯カメラの活用、ゾーニングとICTを組み合わせたセキュリティ対策など、他市の事例を紹介しております。

12ページをお願いします。管理運営方法の基本的な考え方です。

本市では、緊急修繕や定期点検について包括施設管理業務として委託し、草刈りなどについてはシルバー人材センターから人員の派遣を受けて対応しております。一方、複合施設となると、施設管理の主体や責任区分が複雑になるため、学校と地域利用者の役割分担を含め、管理・運営の主体や責任を明確にする必要があります。また、施設管理の効率化や教職員の負担軽減も重要になると考えております。

資料では、複合施設全体の維持管理業務を民間に一括委託する事例や、学校

	用務業務の民間委託、中学校体育館を社会体育施設として活用することを前提に、校舎から独立した施設として整備し、管理委託している事例を紹介しております。 15 ページをお願いします。避難所として確保すべき機能です。 学校は、災害時の避難所として重要な役割を担っています。高砂市のハザードマップでは、阿弥陀小学校、鹿島中学校以外の学校について、計画規模降雨時には2階以上が、また伊保小学校、伊保南小学校、北浜小学校については、高潮時に3階以上が指定緊急避難場所及び指定避難所として指定されています。空調については昨年度整備しましたが、トイレの洋式化や多目的トイレの整備については、まだ十分に進んでいない状況です。また、災害発生後、数か月にわたって避難所として運営する可能性もある一方、学校としてはできるだけ早期に授業を再開することが重要です。そのため、避難所を開設した際に、どの範囲を避難所として使用するかをあらかじめ整理しておく必要があり、現在、危機管理室において検討を進めています。 資料では、避難所運営を想定し、機能面や居住性に配慮して整備した事例や、学校エリアと避難所エリアをゾーニングしている事例を紹介しております。 18 ページをお願いします。体育館です。 体育館は、授業や部活動だけでなく、地域利用や災害時の避難所としても活用される施設です。また、空調を整備したことで、猛暑により校庭を使用できない場合の休み時間の遊び場としても活用できるため、今後さらに重要な役割を担う施設になると考えております。今後、体育館を更新する際には、空調に加え、バリアフリーや防災機能、地域利用なども含めて検討する必要があります。 資料では、長寿命化改修の際に、窓の設置や浸水リスクを踏まえた防災倉庫の上階への配置、地域利用を想定した更衣室の整備など、既存施設の改修に合わせて機能を改善した事例を紹介しております。また、改築時に生涯学習機能や地域防災機能を複合化した事例も紹介しております。
副会長	皆さんからご質問、ご意見がございましたら、よろしく願いいたします。 今日皆様からいただいたご意見を反映して、次回までに高砂市としての考え方の案をお示しします。
委員	本日、両荘みらい学園を視察して、15 ページの避難所として確保すべき機能について、特に体育館の配置が重要だと感じました。 高砂市のハザードマップでは、阿弥陀小学校と鹿島中学校以外は、計画規模降雨時に2階以上、また伊保小学校・伊保南小学校・北浜小学校は、高潮時に3階以上が指定緊急避難場所・指定避難所として指定されていますが、現在の学校の体育館は基本的に1階に配置されています。災害時の安全性を確保するために、体育館をどの階に配置するのかという点がまず検討すべき重要なポイントだと思います。
副会長	両荘みらい学園では、公民館部分の2階を避難スペースとして確保していたため、避難所機能を2階に配置することができました。 一方で、体育館は必要な施設として設置する必要があるため、すべての学校で同様の配置ができるわけではありません。 ご指摘は、学校ごとの状況に応じて、どのように安全な避難スペースを確保するのかという考え方を、資料にどう示すかということだと受け止めています。私も重要な視点だと考えております。
事務局	おっしゃるとおり、浸水想定で避難場所を2階以上としている場合、再編等をした際に体育館を上階に配置できるかをまず検討する必要があると考えて

	います。その上で、可能な限り避難所となるスペースを上階に確保したいと思います。一方、既存校をそのまま使用する場合は、施設利用計画の中で、浸水時にどの校舎を避難所として使用するのかを危機管理室と検討しています。 また、備蓄倉庫の配置についても、浸水リスクと物資の搬出入のしやすさの両面から検討する必要があるため、災害・避難所機能の観点を踏まえて、引き続き検討してまいります。
委員	災害の時に、太陽光発電パネルや雨が降った時に雨水をためる設備、それを飲み水にできるような設備などは考えられているのですか。
事務局	雨水の再利用については、現時点では具体的に検討しておりません。避難所として確保すべき機能として整理していますが、実際にどこまで整備できるのかは難しい部分もあるため、今後、危機管理室と十分に協議しながら検討していきたいと考えております。
委員	災害備蓄の量にもよると思いますが、備蓄品は日常的に使用するものではないため、保管場所については、こどもたちが過ごす校舎ほどの耐震性を求める必要があるのか疑問に感じます。 校舎など、こどもたちが日常的に使用する場所には十分な耐震性を確保する必要がありますが、備蓄品の保管場所については、プレハブなどを活用することでコストを抑えられる可能性もあると思います。 備蓄のために、どこまで費用をかけて専用のスペースを整備する必要があるのか、検討してもよいのではないかと思います。
事務局	備蓄の保管場所としては、まず体育館の倉庫内に備蓄用スペースを設けることが考えられます。一方で、体育館と一体的に整備することで建築費がどの程度増加するののかも重要な視点ですので、コスト面も含めて今後検討していきたいと考えております。
副会長	10 ページの複合施設の動線・配置の基本的な考え方について、右側の事例②は、地域利用する部屋に外から直接入れるようにするという内容ですが、2 ページ前の地域利用スペースの項目で扱う方が適切ではないかと思います。 複合施設については、学校と公民館などのゾーニングを明確に分けるだけではなく、本日の両荘みらい学園の視察で見たように、児童館から学校図書館へこどもたちが自然に流れるなど、施設を近接・一体的に配置することで相乗効果が生まれる場合もあります。 そのため、事例①ではセキュリティを確保する考え方を示しつつ、事例②では、施設を完全に分離するのではなく、一体的に利用することでお互いにプラスの効果が生まれる事例を示した方が、より建設的な考え方になると思います。 本日の視察を踏まえ、事例を入れ替え、現在の事例②は「地域利用スペース」の項目に移していただければと思います。
2 議題（3）その他	
副会長	議題（3）その他について事務局から説明をお願いします
事務局	現在、新たな学校施設のあり方について、教職員から意見を伺っているところでございます。前回ご報告しました学校施設のあり方に関するアンケート調査を実施いたしましたので、速報として結果をご報告いたします。 調査は令和 8 年 6 月 8 日から 7 月 5 日にかけて、校務員及びシルバー人材センターからの派遣職員を除く全教職員を対象に実施しました。 昨年度も各学校でワークショップを実施し、その際に学校施設や適正規模について記述式のアンケートを行いました。今回は、その際にいただいた意見

を選択肢として設定することで、どのような考えを持つ教職員がどの程度いるのかを把握するとともに、できるだけ幅広く意見を伺うことを目的として実施しております。

問 1 から問 4 は回答者の属性になりますので、割愛させていただきます。

問 5 「個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びなど多様な学習形態に対応する教室はどうあるべきか」についてです。

空間のあり方では、「協働学習がしやすい広さのある空間」という回答が最も多く、教室とオープンスペースを分けるというよりも、ある程度広さのある教室の中で、さまざまな学びに対応したいという考えが多かったものと受け止めています。

また、必要な設備機能については、「冷暖房設備」や「Wi-Fi・タブレット等の ICT 環境」が多く挙げられており、こうした設備環境についても重要なニーズがあることが分かりました。

問 6 「新しい時代の学びに対応するための教育環境の整備に必要なもの」については、「特別教室や体育館を含めた冷暖房環境」が最も多く、次いで「ICT 支援員や介助員などの支援員の配置」となりました。特に小学校で支援員の配置を求める割合が高い結果となっています。

問 7 「現在の普通教室において、なにが課題だと思いますか」については、「教材・教具や個人の荷物を収納するスペースが不足している」という回答が最も多く、次いで、「習熟度別学習や少人数指導など、多様な学習形態に対応しにくい」という回答が多くなっています。

問 8 「新しい時代の学びに対応するための児童生徒用机はどうあるべきだと思いますか」については、「タブレットや教科書を広げて置ける天板の大きい机」が最も多く、次いで「必要なときに天板を拡張できる机」となりました。一方、中学校では「現状の大きさのままでよい」という回答も比較的多く、小学校と中学校で、机に対する課題認識に少し違いが見られました。

問 9 「ICT 環境について、今後どうあるべきだと思いますか」については、「校内のどこでも安定して利用できる Wi-Fi 環境」が最も多く、安定した ICT 環境へのニーズが高いことが分かりました。

問 10 「新たな学校を整備する場合、特別教室はどうあるべきだと思いますか」については、設置場所では「関連する教室や準備室を近くにまとめる」、空間のあり方では「授業内容や活動内容に応じて柔軟に使える空間にする」という回答が最も多くなりました。この結果から、特別教室についても、従来のように用途ごとに固定された空間ではなく、授業内容や学習方法に応じて柔軟に使える空間が求められているものと考えております。

問 11 「新たな学校を整備する場合、多目的スペースはどうあるべきだと思いますか」については、設置場所では「学年ごとに利用しやすい場所」、次いで「校内のどこからでも利用しやすい場所」が多く、空間のあり方では「授業内容や活動内容に応じて柔軟に使える空間」や「学年全体・複数学級で利用しやすい空間」が多くなりました。このことから、学年全体での学びに活用しやすく、用途に応じて柔軟に使える空間が求められているものと考えております。

問 12 「教室の壁を開放して廊下や多目的スペースと一体化できる「オープンスペース」が導入された場合、どのような学びが展開できると思いますか」については、「グループワークや探究学習などの協働的な学習活動」が最も多く、次いで「複数クラスによる連携・合同授業」、「学年集会やレクリエーションなどの多人数での活動」となりました。こちらについても、協働学習や学年全体での活動への活用が期待されているものと考えております。

問 13「新たな学校を整備する場合、学校図書館はどうあるべきだと思いますか」については、設置場所では「校内のどこからでも利用しやすい場所」、次いで「児童生徒が自然に集まりやすい場所」が多くなりました。日常の学習活動の中で利用しやすい配置が求められていると考えております。また、空間のあり方については、「読書を落ち着いて楽しめる空間」、「調べ学習や探究学習がしやすい空間」、「静かに読む空間と交流・協働学習の空間を分ける」という回答が多くなりました。従来の読書の場としての機能に加えて、探究や協働学習にも対応できる図書館が求められており、両方を両立させるためのゾーニングが重要だと考えております。

問 14「新たな学校を整備する際に、「ラーニングコモンズ」が導入された場合、どのような活動ができると思いますか」については、「本や ICT を活用した情報収集・調査を行う探究学習」が最も多く、次いで「グループで課題解決に取り組む協働学習」、「一人ひとりが自分のペースで学習する活動」となりました。ラーニングコモンズについて、こどもたちが主体的に学び、対話しながら学習を深める場としての活用が期待されていると考えております。

問 15「新たな学校を整備する場合、特別支援教室はどうあるべきだと思いますか」については、設置場所では「静かで落ち着きやすい場所」、空間のあり方では「個別に落ち着いて学習できる空間」や「クールダウンできる空間」が多くなりました。設備では、「エレベーター」や「多目的トイレ」、「個別ブース」や「安全に配慮した設備」などが多く挙げられています。特にエレベーターについては、未設置の学校もあるため、事務局としても大きな課題と考えております。また、少人数での学習や一人ひとりに応じた支援を求める意見もあり、施設整備だけでなく、支援体制の充実も必要であることが分かりました。

問 16「新たな学校を整備する場合、サポートルームはどうあるべきだと思いますか」については、設置場所では「人通りが少ない静かな場所」、空間では「一人で落ち着いて過ごせる空間」や「外からの視線に配慮された空間」が多くなりました。一方で、オンラインで授業に参加できる設備や個別に学習できる机・ブースなども求められており、安心して過ごせることに加えて、学びを継続できる環境が必要と考えております。また、担任や支援担当者との連携を求める意見もあり、特別支援教室と同様に、施設だけでなく校内の支援体制と一体的に考えていく必要があると考えております。

問 17「新たな学校を整備する場合、教職員が快適に働く環境はどうあるべきだと思いますか」については、空間では「広々とした職員室」や「教材づくりのための作業スペース」、「少人数で打合せできるスペース」が多く、環境面では「明るく清潔感のある環境」や「全館空調」が多く挙げられました。また、各教室との連絡設備や印刷・コピー機、Wi-Fi などの設備に加え、清掃・メンテナンスや必要な人員配置を求める意見も多く、教職員が働きやすい環境を総合的に整える必要があると考えております。

問 18「地域団体や地域住民に貸し出すことができると思う部屋」については、「多目的教室」が最も多く、次いで「会議室」となりました。

問 19「学校が他機能との複合化をする場合、望ましいと思う施設」については、「こども園や保育所等の子育て支援施設」が最も多く、次いで「地域交流センター等の市民文化系施設」となりました。

問 20「地域と部屋や機能を共有または学校と他機能が複合化する場合、セキュリティ対策が課題となりますが、必要だと思う対策」については、「防犯カメラなどの防犯設備」が最も多く、次いで「来校者の受付や入退室管理」

	となりました。学校と地域の利用を進める上では、こうしたセキュリティ対策をしっかりと検討する必要があると考えております。 問 21「地域とともにある学校づくりを推進するために、学校はどうあるべきだと思いますか」については、「教職員が教育活動に専念しやすい体制」が最も多く、次いで「地域と学校が交流しやすいこと」や「地域と学校をつなぐコーディネーター等の配置」となりました。地域との交流を進める一方で、教職員の負担を増やさず、教育活動に専念できる体制を整えることが重要と考えております。 問 22「新たな学校づくりの検討に対して、ご自身の考え方に近い意見があれば選んでください」については、「教職員の意見を取り入れながら進めること」が最も多く、次いで「安全・安心な教育環境を整えること」となりました。 今回の結果からも、教職員の意見を取り入れながら進めることの重要性が改めて確認できたと考えております。事務局としても、これまでの検討を引き続き進めるとともに、計画策定後の施設整備の段階においても、先生方と丁寧に協議しながら進めていきたいと考えております。 アンケート調査に加えて、教職員を対象としたワークショップも実施する予定です。8月17日午前の実施に向けて、現在準備を進めております。 学級担任や主幹教諭を中心に、「学びの場」をテーマとして、ラーニングコモンズと普通教室・多目的スペースについて、他市の事例を紹介しながら、「他市でこのような事例があるなら、高砂市ではどのようなことができるか」を考えていただく内容を予定しております。 また、今後は子どもや市民からの意見聴取も予定しております。こちらについては現在検討中ですので、次回、具体的な内容をお示しし、ご意見をいただいた上で実施したいと考えております。
副会長	ご説明ありがとうございました。大変貴重なデータだと思います。 今回のアンケート結果には、次回、高砂市の基本的な考え方を整理する際の参考となる意見が多く含まれていると感じております。 先ほどご説明いただいた内容について、先生方の意見や反応など、お気づきの点がございましたら、ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。
委員	小学校と中学校で同じような傾向があると私は確認しました。その上で、アンケート調査結果として、有効回答率が100%というのは難しいと思いますが、78.3%というのは当初の目標と比べて低いのか高いのか、この回答率についてどのようにお考えなのか感想を教えてください。
事務局	担当としては、有効回答率78.3%は低いと考えております。本来は100%の回答を目指しておりました。 全教職員を対象とした中には、端末を持っていない方もおり、そうした事情も今回の結果につながったと考えております。今後も意見聴取を行っていく中で、こちらからも積極的に声かけを行い、できるだけ多くの教職員から意見をいただけるよう、回答率の向上に努めていきたいと考えております。
委員	なぜ2割の先生方が回答されなかったのかでしょうか。
委員	回答率については、予想どおりだと考えています。教職員は非常に多忙で、端末でアンケートに回答する時間を確保することが難しい先生も一定数いると思います。そのような状況を考えると、8割近い回答率まで集められたことは、むしろよく頑張った結果だと思います。 学校によっては、100%を目標として声かけをしたことで全員が回答できたところもありますが、全体としては、目の前の保護者対応などに追われる中で、何年も先の学校づくりを自分事として考えて回答する余裕がない先生もいると思います。

事務局	有効回答率について補足いたしますと、今回は介助員やスクールアシスタント、不登校支援員など、補助的に学校に関わっていただいている方も対象としております。中には週1回程度の勤務の方もおられるため、その点を考えると、一定程度回答をいただけたものと考えております。
委員	対象者については、もう少し絞って、回答率が100%に近づけるような方法も検討してよかったのではないかと思います。学校施設のあり方という重要なテーマですので、回答率が70%台となると、市民から見たときの印象も考える必要があります。教職員の多忙さも理解していますが、常勤職員や管理職など、誰から意見を聞くことが適切なのかを整理した上で、より回答率を高められる方法を検討していただきたいと思います。
事務局	回答率も重要ですが、今回はできる限り幅広い教職員からご意見をいただき、また、新たな学校づくりに先生方にも関わっていただくきっかけにしたいという思いから、令和6年度より意見聴取を続けています。 その中で先生方にご負担をおかけしている部分もありますが、少しずつ一緒に学校づくりを進める形をつくっていきたいと考えています。一方で、回答率を高めることも重要ですので、今後はより多くの方に回答いただけるよう、事務局としても工夫していきたいと考えています。
委員	アンケートでは、回答割合が同程度であっても、内容として相反する意見が見られます。例えば、多目的スペースを普通教室の近くに配置することと、落ち着いて過ごせる空間を確保することは両立が難しい場合があります。こうした相反する意見を、最終的にどのように整理していくのでしょうか。
事務局	求められている環境にできるだけ近づけることが我々の役割だと考えています。どちらか一方を選ぶのではなく、双方をどのように実現するかを、ゾーニングなどを工夫しながら検討していきたいと考えております。完璧に両立することは難しい部分もありますが、できる限り実現できるよう取り組んでいきたいと思えます。
委員	問7の結果を見ると、普通教室におけるICT機器を効果的に活用するための環境については、課題として挙げる割合が低く、現状のICT環境については一定程度満足されているのではないかと感じました。一方で、冷暖房設備や荷物を置くスペースの不足など、ICT機器よりも基本的な教室環境に関する意見が多いように見受けられました。また、壁を可動させて廊下とつなげ、オープンスペースとして活用できる環境については、回答割合がそれほど高くありませんでした。これは、オープンスペースを実際に利用した経験のある教員が少なく、具体的な活用方法をイメージしにくいことも一因ではないかと考えます。
事務局	ICTについては、一人一台タブレットの配布をはじめ、Wi-Fiや電子黒板の整備も進めており、全国的に見ても整備が進んでいると考えています。そのため、ICT環境については課題として挙げられる割合が低かったのではないかと思います。一方で、現在は校舎内での利用が中心となっているため、今後の学びにつなげていくためには、より幅広くICTを活用できる環境が必要であるという意見として受け止めています。 また、オープンスペースについては、ご指摘のとおり、教室そのものを広くすることで、その中で多様な学びができるのではないかと、教室と廊下を一体的に活用する必要性は低いのではないかと意見があると受け止めています。しかし、現在の教室を1.5倍、2倍に広げることは現実的には難しいため、限られた空間の中で多様な学びを可能とするためには、どのような空間構成が考えられるのか、今後検討していきたいと考えています。
委員	阿弥陀小学校に可動間仕切りがあったと思いますが、実際にどの程度活用されているのかについて、調査結果はあるのでしょうか。
事務局	可動間仕切りは阿弥陀小学校と荒井小学校にあります。現状では使用されていない状態です。一方で、今回のアンケートでは、これからの学びとして、学年間

	での学びや協働的な学びなど、さまざまな意見が出ています。そのため、こうした学びを実現しやすくするためには、どのような空間が適しているのかを考えていく必要があります。 教室を大きくすることや、空間を柔軟に使えるようにすることを考えると、可動間仕切りも一つの選択肢になると考えています。今後、学校と十分に話し合った上で、可動間仕切りを採用するかどうかを検討するとともに、教育委員会としても、どのような教室や空間が望ましいのかを一定程度整理し、お示ししたいと考えています。
副会長	両荘みらい学園の低学年棟も可動式間仕切りとなっていました。現地で説明では、単独の学級での学びというよりも、他の学年との学びや隣のクラスと一緒に学ぶ際に有効であるとのことでした。ただし、小学校では1学年1クラスとなっているため、現在は同じ学年の別のクラス同士で連携した授業を行うことができず、その効果を十分に確認できていないとのことでした。
委員	アンケートで年齢別の集計はありますか。例えば、20代・30代の教職員と40代・50代の教職員では、特にICTに関する回答に違いがあるのか、どの項目で意見が分かれるのか気になります。世代によって回答に大きな差があるのであれば、今後の学校づくりを考える上では、20代・30代の教職員の意見をより重視する必要があるのではないかと思います。
事務局	全体の年齢別であれば出せると思いますので整理します。
3 閉会	
副会長	本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。
事務局	委員の皆様、長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。また、視察からご参加いただいた皆様も、本当にお疲れ様でございました。 本日は、今後整備する学校についての高砂市の基本的な考え方や、現状と課題についてご審議いただきました。 次回以降は、学校の再編案をお示しし、ご検討いただきたいと考えております。引き続き、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。
教育長	皆様、視察から長時間にわたりご苦労様でした。今回の視察を通じて、他の事例を見ることは非常に大切だと改めて感じました。さまざまな場所で工夫されている点を実際に見ることができましたし、委員の皆様と一緒に視察することで、その内容を共有することもできたと思います。 今後は、計画の策定に向けて、いよいよ佳境に入ってくると思います。どのように施設を複合化するのか、何を共用化するのか、また、教職員の意見をどのように整理していくのかなど、検討すべき事項が多くあります。今後、再編案をお示しした上で、どのようにまとめていくのが重要になってくると考えています。今後も本審議会において忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。
副会長	以上を持ちまして、第10回高砂市新たな学校づくり推進審議会を終了いたします。